

私は、母校へ3週間実習に行った。母校は、海や山、自然に囲まれており、道徳活動に力を入れている点が特徴的だ。担当クラスは1クラス20人程で、3クラスあった。クラスは常に活気があふれていて、授業中の発表や話し合いの活動では積極的に参加する生徒がたくさんいた。初日から笑顔で話かけてくれる生徒も多く、生徒と話している時間や生徒の楽しそうな顔を見ることが実習中の癒しだった。

実習内容としては、1週目は、授業見学と各担当の先生による講和・指導、2週目からは、授業づくりや授業の実施だった。2週目には道徳の研究授業があり、3週目には英語の研究授業があった。教科の授業以外には、合唱コンクールの練習やスポーツ大会を手伝ったり、日々記という毎日の日記にコメントしたりした。毎日朝は、下駄箱前で挨拶をし、部活動は、週に3回以上は参加した。そして、私は、実習前に二つの目標を立てて実習に挑んだ。一つ目は「苦手な生徒も楽しい、面白いと思えるような授業をすること」。二つ目は「実習を通し、教師になるのか就職するのかはっきり決めること」だ。実習をしていく中で目標は他にもたくさんできたが、この二つの目標は常に頭において、授業構成や学校生活での態度を工夫した。

1週目では、「いろいろな先生の授業を積極的に見て、技を盗むこと」「講和を通し、教員の面白さや大変さを教えていただくこと」を意識した。英語の授業でも、1年生から3年生まですべての先生の授業を見に行き、それ以外の授業は、2年の授業を中心に見学させてもらった。同じ教科でも先生によって、授業の形態は全く違っていたが、どの授業でも、グループ活動やペア活動を多く取り入れていた。ゲームやクイズをしながら、学習することで、生徒は楽しみながら苦手意識を持つことなく主体的に取り組んでいると感じた。私が中学生の時と全く違うなど感じたのは、タブレットを一人一台持っていて、授業の中でも、メディア教材を多く使用していたことだ。英語では、デジタル教科書を使っていて、黒板はほとんど使っていなかった。動画や写真を見せたり、音楽を流して授業の雰囲気高めたりしていて、飽きて寝ている生徒はほとんどいなかった。いろいろな先生に授業で意識していることを尋ねると、「発問」を意識している先生が多かった。生徒一人ひとりがしっかり考えられる発問をできるだけ多く投げかけ、生徒の答えからさらに考えを深める発問をしていることがわかった。講和・指導では、生徒指導や人権・同和教育、食育・保健指導など授業以外のことを学んだ。教師の役割の多さに驚いたが、どの先生も生徒を想う気持ちが強いことを実感した。そして、私が将来悩んでいると相談すると、部活動や親や不登校生徒の対応など、大変な部分も多いし、それで辞めてしまう先生がいる

こともあると教師の実状を詳しく話してくださった。しかし、それ以上に生徒の成長する姿を共に見ていける部分は、本当にやりがいを感じるし他の職業では得られないものだとも教えてくださった。私は将来を通して何を実現させたいのか、どういった人生を歩みたいのか改めて考えることができた1週目だった。また、授業見学をする度「早く授業がしてみたいな」と強く思い、先生方から学んだ技を、2週目からの授業で取り入れていこうと決意した。

2週目からは、授業をするまでは特に「生徒と積極的にかかわり、生徒のことをよく理解すること」、授業を作る中では「生徒の興味関心を引き出す仕掛けを必ず入れること」「その授業を通して一番何を身に付けさせたいか」を意識した。授業を始める前は、授業見学をして授業が楽しみだという気持ちが大きかったが、やってみると指導案通りには進まないし、説明が伝わらないことも多かった。指導案を作るのも、初めはなかなか進まなかったが、とりあえず書いてみてとにかく指導教官に添削してもらうことを繰り返した。そして、英語の授業は、2年全クラスを担当し、道徳の時間も1時間持たせてもらった。英語の授業では、始まるまでに、自己紹介シートを配って英語が好きかどうか、どのくらいの英語レベルなのかを把握した。英語の授業が楽しくて好き、授業の中の歌を歌う時間が好きといった声が多く、音読や発表も積極的に参加していたので、そういったアクティビティを必ず入れた。しかし、ゲームのようなアクティビティをしすぎるとただ遊んでいるだけで、何を身に付けられたかわかっていない生徒も多くいた。集中が途切れ、なかなか静かにならずに時間内に終わらないことも多かった。授業をしていく度に課題が増え、生徒が理解できていない顔を見る度落ち込むことも多かった。特に、道徳の時間では、上手く授業を終えられず、学びの浅い授業になったと悔しかった。振り返って反省してみると、「教材研究と発問づくりの大切さ」に気づいた。教師は生徒以上に教材を読み込み、教科書のどの部分を取り上げると、身に付けてほしい部分に繋がるのか、生徒がどんな反応をするのかまで考えて授業を作らないといけないなと学んだ。発問も少しの言葉のニュアンスの違いで、伝えたいことがうまく伝わらず、生徒の立場に立ってわかりやすい発問を作らないといけないなと学んだ。英語の授業では、時間管理と教師が使う英語量が課題だった。そのため、研究授業では特にこの二つの改善に取り組んだ。前もってアクティビティや説明の時間を決め、何度もリハーサルをした。説明や指示も意識して英語を使い、生徒が英語に触れる時間を少しでも増やすようにした。そして、生徒が興味・関心を持ち、主体的に参加し、いつの間にか新文型を使えるようになるため、新文型を使えるカードゲームを取り入れた。研究授業を振り返り、課題として挙げていた2つはクリアできた。しかし、まだまだ課題はたくさんあった。特に、評価を考えずに授業をしていたことだ。観察を中心に評価することにしてはいたが、グループワーク中は特に難しかった。改めて机間指導の目的と仕方の大切さを学んだ。一人ひとり新文型を作って書く活動を入れたが、机間指導しながら、良い意見やよくある間違いをしている生徒の意見があれば、メモをしておいて授業内で取り上げればより良い授業になったかなと反省した。それでも、生

徒たちが楽しそうに活動している姿やよくわかったというコメントを見て、授業をしてよかったなあと思った。実習最後に生徒からももらった色紙の中にも、先生の授業は面白かったとか、先生のような先生になりたいと思ったなどと書いてくれていて目頭が熱くなるほど嬉しかった。

実習を通して、「授業の難しさ」や「オリジナルの授業を作れる面白さ」を学び、1つ目の目標は8割達成できた。そして、2つ目の目標を達成する中で、教師にしか味わえないやりがいや大変さも学んだ。さらに、社会人としての心構えをも身に付けることができた。

実習の3週間はとてもあっという間で私が経験したことは、中学校教師のほんの一部にも過ぎないことだと思う。しかし、こうして、貴重な経験が出来、無事に実習を終えることが出来たのも、ご指導くださった先生方をはじめ、多くの人々の支えがあったからこそだと思う。そして、ともに時間を過ごした子どもたち一人ひとりにも感謝の気持ちでいっぱいだ。実習を終えて、教師としてではなく、就職という新たなスタートに立ち、しっかりと決意が出来た。この実習を通して学んだことを活かし、今後も一步一步前に進んでいきたい。